様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３３１０１８９

研究課題名（和文）日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発

研究課題名（英文）An innovative Peace/History Education Program for the Chinese and Japanese Post-War Generation

研究代表者
村本　邦子（Muramoto, Kuniko）

立命館大学・応用人間科学研究科・教授

研究者番号：７０３４３６６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　5,300,000円、（間接経費）　1,590,000円

研究成果の概要（和文）：　米国で開発され対立する民族の和解修復に効果をあげているHWH（Healing the Wounds of History）プログラムをもとに、日中の戦後世代を対象としたHWHプログラムをアクションリサーチの手法を用いながら計7回の試行錯誤と改善を繰り返し、戦後世代向けの新たな歴史・平和教育としての東アジア型HWHプログラム開発を行った。
　これらの成果は計3回の国際会議と2回の国内学会で報告し、3冊の報告書を出版した。

研究成果の概要（英文）：　In this research, we developed an East Asia HWH (Healing the Wounds of History) program as a new historical and peace education for the post-war generation in this region. Based on the HWH developed in the United States, which has been proven effective in the reconciliation of ethnic groups in conflict, we conducted trials of this HWH program in Kyoto and Nanjing, a total of seven times, while using the action research method.
The results were reported at three international conferences and at two domestic academic conferences, as well as in three publications.

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：トラウマ　世代間連鎖　平和教育　東アジア　歴史

１．研究開始当初の背景
トラウマ研究の分野において、歴史のトラウマの世代間連鎖が指摘されている。過去の戦争の傷は、日本と東アジア諸国の関係に、今もって深刻な影を落としているばかりでなく、現代社会の鬱や心身症、DV や虐待など暴力の問題としても現れていると考えられる。その解決を目指して、日中米の心理臨床家、歴史・平和教育者らが協力し、アルマンド・ボルカスが開発した HWH「歴史の傷を癒す」プログラムを東アジアに応用した修復プログラムを開発することにした。

２．研究の目的
本研究は、日中米の臨床心理学、歴史学、平和学の成果を踏まえ、戦争による暴力被害・加害の歴史的トラウマに向き合い、それを乗り越えながら、次世代が新たな関係を築くための平和教育プログラムを開発することを目的とした。米国で開発され、対立する民族の和解修復に効果をあげている HWH「歴史のトラウマを癒す」プログラムを日中の若者世代で実践し、その結果を質的研究法によって検証することで、文化的要因も考慮しながら、戦後世代向けの新たな歴史・平和教育としての東アジア型 HWH プログラムを開発する。

３．研究の方法
(1)初年度である平成 23 年 8 月、それまでの研究成果を整理し、蘇州における国際表現性心理学会にて発表すると同時に、試行的ミニワークショップを実践し、評価を行った。その結果を踏まえ、10 月、南京にて、国際会議を開催、プログラムの検討を行ったうえで、アクションリサーチの手法に基づき、4 日間の HWH 試行プログラム「南京を思い起こす 2011」を実践した。ここで収集したデータに基づくプログラム評価を行い、その成果を報告書①として公開した。

(2)平成 24 年 5 月、京都にて国際会議を開催し、上記プログラム評価に基づいて、HWH プログラムの実践に関する基本的枠組みの理解と実践における課題について議論した。合わせて、試行的ミニワークショップを実施した。この成果は報告書②として公開した。

(3)平成 24 年 9 月より平成 25 年 6 月にかけ、平成 23 年度南京にて開催した HWH 試行プログラム「南京を思い起こす 2011」の参加者（日中 9 名）を対象にインタビュー調査を実施した。このインタビューデータと、すでに報告書①②として公開した結果をもとに分析を行った。その際、とくに、①戦後世代に歴史的暴力とその「トラウマ」がどのような影響を及ぼしているのか　②和解のワークショップに参加することが参加者にどのような影響を及ぼしているのか？（a.世代間トラウマ b. 参加者同士の関係　c.参加者を取り巻く関係性）③東アジアの特異性はどこにあるのか？の問いにもとづき分析を行った。

(4)ここまでの結果を踏まえ、平成 26 年 9 月、京都にて試行的ミニワークショップを実践し、南京にて 4 日間の HWH 試行プログラム「南京を思い起こす 2013」を実践し、その後の国際会議にて評価を行った。この成果は報告書③として公開した。ここまでの成果を日本平和学会で発表した。

４．研究成果
(1)研究方法に書いたような手順を踏みながら、アクションリサーチの手法を用いて、実践→評価→実践→評価を繰り返しながら研究を継続し、日中の戦後世代に向けた新たな歴史・平和教育プログラムを作成したことがもっとも大きな成果である。なお、プログラムの具体的内容については、下記の報告書に見ることができる。

①『人間科学と平和教育：体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から』立命館大学人間科学研究所、2012
http://www.ritsumeihuman.com/cpsic/model3.html

②『歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み：国際セミナー「南京を想い起こす 2011」の記録』立命館大学人間科学研究所、2012
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78

③『日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発』立命館大学人間科学研究、2014
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/104

(2)プログラムのプロセスと参加者へのインタビューを通じて得られたデータを分析することによって、下記の点が明らかになった。

①戦後世代には、被害・加害に関わらず、家族生活のなかにおけるタブーとあふれ出る語りを通じて、歴史的暴力とその「トラウマ」が、恐怖、怒り、麻痺、恥辱感、罪責感をもたらしており、これが、「世代間トラウマ」と呼ばれるものである。

②ワークショップに参加することは、過去に向き合い修復を求めようとする第一歩を示しているが、上記「世代間トラウマ」の影響によって、参加者同士の出会いを妨害するものとして作用する。

③ワークショップのなかで、個人としての小さな物語を共有することができると、参加者たちは、地続きの歴史を感じ、絆を結ぶこと

ができる。

④公式のプログラムを共有する一方で、非公式の時間を共にすることが、戦後世代の距離を縮めるうえで有用であった。

⑤これらを踏まえ、暴力が関係性にもたらす否定的インパクトをトラウマと呼び、歴史のトラウマの修復とは、破壊されてしまったさまざまな関係性を紡ぎ直すことであると捉え直すことが適切であることが明らかとなった。そこで、このプログラムを、歴史的暴力によって破壊されてしまった関係を紡ぎ直す出会いのワークショップであったと再定義した。

⑥東アジアの特異性を考えるうえで、地政学的条件を考慮する必要がある。ワークショップのようなミクロな出会いの場においても、日中という二者関係だけでなく、その背後にあるアメリカ等の影響を意識化する必要があった。

⑦アジアの文化における謝罪については、さらに詳細な検討が必要であることが明らかになった。

⑧時間経過とともに、日中の溝だけでなく、世代やジェンダーの溝を感じることになった。幾重もの次元で、関係の結び直しが必要であることがわかった。

⑨これまでの取り組みと成果をまとめ、日中英の3ヶ国語で出版する予定である。これを留学生や国際交流のテキストとして、日中戦後世代の出会い直しと関係の紡ぎ直しの小さな歴史を広く共有し、成果の有効活用をしたい。

(3)本来の研究はここまでであったが、あらたに派生した成果があった。それは、HWH の手法を少数先鋭のセラピーとしてだけでなく、一般の歴史・平和教育に応用し広めていく可能性である。2013年9月、最初の試みとして、立命館大学国際平和ミュージアムにて、歴史・平和教育に携わる教師やボランティアのためのワークショップを試み、評価を行った。この成果は論文発表したほか、学部レベルの平和教育や国際交流、教職課程に導入する可能性を検討している。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　23　件）

1.村本邦子　歴史・平和教育における「二次受傷」をどう考えるか～立命館大学国際平和ミュージアムにおける平和教育の現状と可能性　立命館平和研究　第 15 巻　査読有　2014 59-68
2.村本邦子　「南京を思い起こす」7 年間の成果と今後に向けて～歴史のトラウマと出会いのワークショップ HWH　インクルーシブ社会研究　1　査読無 2014　148-168
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/104
3.村川治彦　文化的国家的アイデンティティと責任主体のあり方　インクルーシブ社会研究　1　査読無 2014　241-260
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/104
4.村本邦子　日本の児童・女性政策と心理学～バックラッシュ、ナショナリズムと心理学　心理科学　第 34 巻 2 号　査読有　2013 24-29
5.村本邦子　フェミニズムはどこへ～女たちの財産を次世代に受け渡すために　女性ライフサイクル研究　第 23 号　査読無 2013　5-12
6.金丸裕一　「尖閣」問題をめぐる思索／祈り　福音と世界　68 巻7号　査読有　2013 38-41
7.金丸裕一　歴史学方法論與通往和解之路　立命館経済学　61 巻 5 号　査読無　2013 119-125
8.村本邦子　いま、家族を問う～家族は変わったか？　女性ライフサイクル研究　第 22 号　査読無　2012 5-11
9.小田博志 エスノグラフィー教育の現場から　感性工学　第 11 巻 1 号 査読無　2012 29-32
10.村本邦子　人間科学と平和教育～体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の取り組みから 共同対人援助モデル研究 5　査読無　2012　8-13
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78
11.小田博志　物語のタペストリー　共同対人援助モデル研究 5　査読無　2012 142-147
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78
12.村川治彦　「人間科学と平和教育」今後の展望　共同対人援助モデル研究 5　査読無 2012　148-151
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78
13.金丸裕一　「平和構築のための歴史学」は許容されるのか　共同対人援助モデル研究 5　査読無　2012　152-153
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78
14.吉ゲン洪　「人間科学と平和教育」に参加して　共同対人援助モデル研究 5　査読無 2012　154－156
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78
15.村本邦子「人間科学と平和教育～体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラ

ム開発の視点から」を開催して～HWH のこれから　共同対人援助モデル研究 5　査読無 2012　157－166
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78
16.村本邦子　続・歴史のトラウマと和解修復の試み～「南京を思い起こす 2011」の報告と課題　共同対人援助モデル研究 3　査読無 2012　55-69
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/75
17.小田博志　南京と「和解」～歴史の深淵に橋をかける　共同対人援助モデル研究 3 査読無　2012　70-85
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/75
18.金丸裕一　戦争史研究の諸問　共同対人援助モデル研究 3　査読無　2012　86-93
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/75
19.村川治彦　一人称から歩み直す「戦争体験」－体験心理学に基づく歴史・平和教育の構築に向けて　共同対人援助モデル研究 3 査読無　2012　94-105
http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/75
20.Kuniko Muramoto History and Current Approaches to Violence Towards Women in Japan Feminism & Psychology Vol.21 No.4 査読有　2011 509-514
21. 村本邦子　戦時性暴力/日常の性暴力～南京ワークショップからの報告　立命館言語文化研究 23 号 2 巻　査読無　2011 183-185
22.小田博志　フォーラムとしての「平和の人類学」　民博通信　No.133　査読無　2011 18-19
23. 村本邦子　「外のグループ」と「内のグループ」を繋ぐ精神療法～歴史のトラウマと和解修復の試みとしての HWH を使った国際セミナー「南京を思い起こす 2009」の紹介を通して　集団精神療法　第 27 巻 2 号　査読有 2011　126-131
〔学会発表〕（計　12　件）
1.村本邦子・村川治彦・小田博志　暴力の世代間連鎖を断ち切る――日本・中国の戦後世代による「和解」ワークショップの試みから 日本平和学会 2013 年度秋季大会　2013 年 11 月 10 日
明治学院大学白銀キャンパス（東京都港区）
2.小田博志　遺骨が媒介するポストコロニアルな関係性－ナミビアとドイツを事例として　日本平和学会 2013 年度秋季研究集会 2013 年 11 月 9 日　明治学院大学白銀キャンパス（東京都港区）
3.村本邦子　（招待講演）表現療法を用いた歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み～「南京を思い起こす」5 年間の試みから　国際表現性心理療法シンポジウム 2013 年 10 月 21 日　国立台北教育大学（台湾台北市）
4.村本邦子　”Healing Wound of History” 5 年の試みを振り返って　国際シンポジウム「アジアの戦後世代の歴史平和教育をつくる」　2013 年 9 月 21 日　南京師範大学（中国南京市）
5.村川治彦　東アジア型 HWH プログラムの諸課題　国際シンポジウム「アジアの戦後世代の歴史平和教育をつくる」　2013 年 9 月 21 日　南京師範大学（中国南京市）
6.村川治彦・村本邦子・小田博志　（招待講演とコメント）体験的心理学を基盤とした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発の試み　日本平和学会 2012 年度春季研究大会「非暴力」分科会　2012年 6月 23日　沖縄大学（那覇市）
7.小田博志　（招待講演）平和資源としてのアートと博物館　日本アフリカ学会第 49 回学術大会記念シンポジウム「アートと博物館は社会の再生に貢献しうるか?」　2012 年 5 月 26 日　国立民族学博物館（吹田市）
8.金丸裕一　（招待講演）戦争史研究的幾個問題　国立東華大学歴史学系學術専題演講 2011 年 12 月 27 日　国立東華大学（台湾台北市）
9.村川治彦　（招待講演）アジアの戦後世代が継承する戦争の記憶と臨床心理学の知見を応用した平和教育の試み　関西大学平和教育研究会　2011 年 11 月 15 日　関西大学（吹田市）
10.Kuniko Muramoto（招待ワークショップ）Remembering Nanjing: Intergenerational transmission of historical trauma and efforts for reconciliation with expressive arts therapies　The 3rd International Conference on Expressive Therapy: Trauma and Expression　蘇州大学（中国蘇州市）2011 年 8 月 9 日
11.Kuniko Muramoto（招待講演）Remembering Nanjing: Intergenerational transmission of historical trauma and efforts for reconciliation with expressive arts therapies　The 3rd International Conference on Expressive Therapy: Trauma and Expression　中国・蘇州大学　2011 年 8 月 6 日
12.小田博志　ホロコーストと「和解」：プラハの事例を通して　京都大学人文科学研究所共同研究「トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究－物語からモニュメントまで－」　2011 年 5 月 30 日　京都大学人文科学研究(京都市)
〔図書〕（計　10　件）
1.村本邦子　暴力と戦争のトラウマに向き合う心理学　君島東彦・名和又介・横山治生編『戦争と平和を問い直す～平和学のフロンティア』法律文化社　2014　72-84
2.小田博志・関雄二（編著）『平和の人類学』法律文化社　2014　218 頁
3.村本邦子（編）『日中の戦後世代を対象に

した新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発』立命館大学人間科学研究　2014 http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/104　269 頁
4.小田博志　ハンス・パーシェと日本―国境を越えたつながりの物語　日独交流史編集委員会（編）『日独交流 150 年の軌跡』　雄松堂書店　2013　345(204-209)
5.村本邦子（編）『人間科学と平和教育：体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から』立命館大学人間科学研究所　2012 http://www.ritsumeihuman.com/publications/read/id/78　166 頁
6.村本邦子（編）『歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み：国際セミナー「南京を想い起こす 2011」の記録』立命館大学人間科学研究所　2012　427 頁 http://www.ritsumeihuman.com/cpsic/model3.html
7.小田博志 足もとからの平和―北海道の「民衆史掘りおこし運動」から学ぶ　越田清和（編）『アイヌモシリと平和―〈北海道〉を平和学する！』法律文化社　2012　73-98
8.Hiroshi Oda Ethnography of Relationships among Church Sanctuary Actors in Germany. Randy Lippert and Sean Rehaag (eds.) Sanctuary Practices in International Perspectives: Migration, Citizenship and Social Movements. 2012 Routledge: 148-161　(288)
9.Hiroshi Oda　Japan und Hans Paasche: Ein pazifistischer Wanderer zwischen den Welten　in Curt-Engelhorn-Stiftung fur dei Reiss-Engelhorn-Museen und Verband der Deutsch-Japanischen Gesellschaften(Hrsg.) Ferne Gefahrten: 150 Jahre deutsch-japanische Beziehungen. 2011 Schnell und Steiner: S. 212-215.(324)
10.金丸裕一（監修）『大陸新報主要記事目録昭和 16～20 年度』、ゆまに書房、2011 593 頁
〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
村本　邦子（Muramoto, Kuniko）
立命館大学・応用人間科学研究科・教授
研究者番号：70343663

(2)研究分担者
村川　治彦（Murakawa, Haruhiko）
関西大学・人間健康学部・准教授
研究者番号： 20527105

(3)研究分担者
小田　博志（Oda, Hiroshi）
北海道大学・文学研究科・准教授
研究者番号：30333579

(4)研究分担者
金丸　裕一（Kanemaru, Yuichi）
立命館大学・経済学部・教授
研究者番号：80278473

(5)研究分担者
吉　ゲン洪（Kitsu, Genkou）
立命館大学・応用人間科学研究科・教授
研究者番号：60288694

(6) 研究分担者
池内　靖子　（Ikeuchi,Yasuko）
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号：80121606
（平成 23 年度まで）